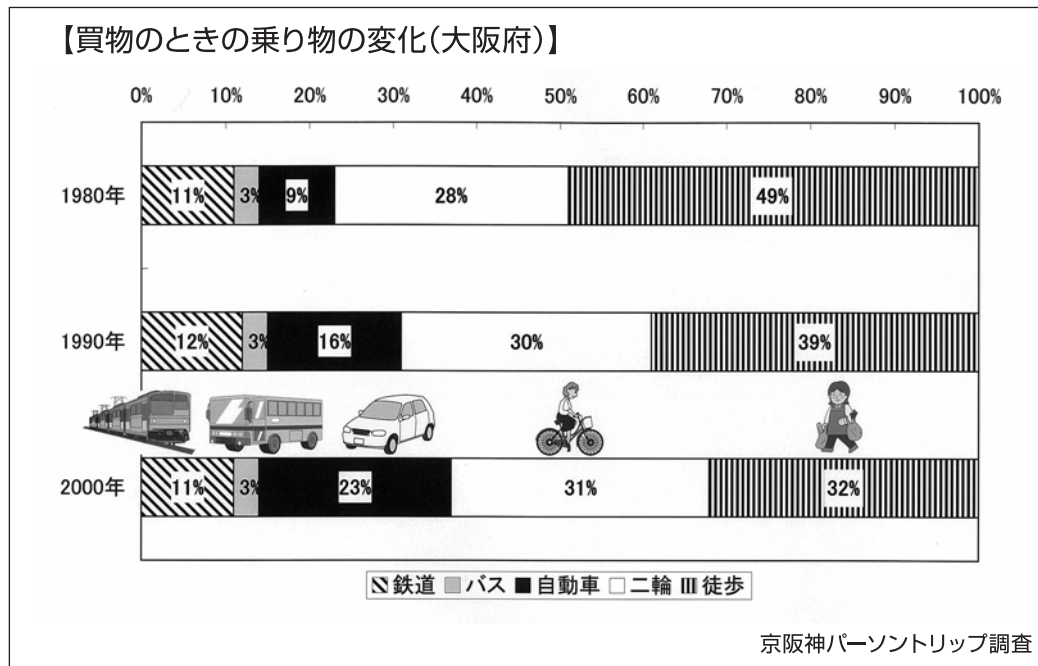


## 【買物のときの乗り物はクルマが増えて徒歩が減っています】



買い物を目的とした交通手段<sup>1)</sup>の占める割合(分担率)の変化を示しています。

1980年から20年間で、クルマの占める割合が9%から23%と2倍以上増えています。その代わりに、1980年には約半分を占めていた徒歩が、20年間で32%まで減っています。

二輪が少し増えているのは、二輪に自転車が含まれているのが影響しています。

⇒「なぜクルマが増えて、徒歩が減っているのでしょうか？」

### 〔注意事項〕

1)この交通手段は、代表交通手段を示しています。代表交通手段とは、1回の移動でいくつかの交通手段に乗りかえた場合、その中の主な交通手段です。その決め方は、鉄道>バス>自動車>二輪車>徒歩の順で優先順位が決まっています。たとえば、家から徒歩でバス停まであるいてバスに乗り、駅前のバス停で降りて、駅から鉄道を使って都心部のデパートに買い物に行くとすると、この代表交通手段は鉄道になります。

### 〔用語の解説〕

◆**パーソントリップ調査**／パーソントリップ調査は、交通の主体である「人の動き」を把握することを目的として国土交通省が行っています。調査内容は、どのような人が、どこからどこへ、どのような目的・交通手段で、どの時間帯に動いたかについて、アンケートをとって動きを調べるものです。京阪神では1970年に第1回を実施し、それ以降約10年ごとに行われています。